

生産性と品質の向上に向け、 課題整理と改善策の立案、浸透

選ばれる続ける企業としてさらなる成長を遂げるためには、物流業務における生産性と品質の向上が不可欠である。その実現を目指し、課題の抽出や整理、分析、そして改善策の立案と社員への浸透に取り組んだ。

▼ 取り組み内容

Step 1
現状把握

3~10人の小集団による会議を開き、これまで現場で起きているミス事例や問題点を調査。

Step 2
原因分析

デジタルピッキングシステムなどのデータを収集し、Step1で挙げた問題点の原因を分析。

Step 3
対策立案
実施

作業の見直し、マニュアルの整備などの対策を立案、実施し、その効果をデータで検証。

Step 4
定着
継続

改善に向けたPDCAサイクルを恒久化していくための仕組みづくりを社員と検討。

受入企業

株式会社アペックス 代表取締役社長 沖野 幸一 さん

冷凍・冷蔵車はもちろん、冷凍・チルド・常温の3温度に対応した保管倉庫・配送センターを保有し、食品の低温流通を、メーカーから店舗や消費者に至るまで一貫して手掛ける。近年はタクシー会社やガソリンスタンドを買収。長く働ける環境の整備に向け、グループ内で人材を循環できる体制づくりに腐心する。

研究員

渡辺 博玲 さん

静岡県出身。1999年に北海道大学大学院工学院修士課程を修了後、本田技研工業に入社。技術研究所で主任研究員などを歴任し、車の研究開発を担当する。2017年にトランス・コスモスに入社し、ESS本部サービス戦略推進部部長として製造業向けのコンサルティングやエンジニアリングなどを手掛けた。

共創型企業・人材展開プログラム 事例

CASE:

選ばれ続ける
企業を目指し、
生産性と品質を向上

取り組みの成果
・
今後の取り組み

- ・過去1年のエラー（誤配・破損など）データを収集・分析し、対策を立案。社員の協力も得て、エラー率50%削減の目標を達成した。
- ・配送時の運行データを安全対策に生かすため、RPAを導入して自動的に収集できるようにした。
- ・4月以降も生産性や品質の改善活動を継続し、将来的に物流改革につなげていく。

企業の評価・今後の関わり方

参加理由

- ・生産性や品質の改善に課題を感じていたのですが、現場の社員だけで解決するのは難しく、着手できずにいました。そんな時、北國銀行さんから話を聞き、外部の方の視点が生かせる絶好の機会と考え、参加しました。

評価（成果・社内変化など）

- ・これまで社内では精神論や感覚値で生産性や品質を向上させようとしてきましたが、渡辺さんはデータの収集とその分析によって、課題や原因を明確化してくれました。そのため有効な対策が立てやすくなり、効果も数値で検証できるようになりました。
- ・運送会社に勤めている人は車好きが多く、自分より車のことをよく知っている人の話はよく聞く傾向にあります。ですから渡辺さんの資質はもちろん、元ホンダというキャリアも活動を進める上でプラスに働きました。
- ・予想以上の成果が得られ、非常に満足しています。また、トップダウン経営の会社であって、渡辺さんの存在により、今まで以上に自分たちの意見を吸い上げてもらえる環境ができたので、社員も喜んでいると思います。

今後の関わり方

- ・所期の目標は達成できましたが、重要なのは継続であり、ゆくゆくは改善活動を物流改革につなげたいと思っています。そのためにも渡辺さんにはしかるべき役職を用意し、正社員としての入社をオファーしています。

研究員の評価・今後の展望

参加理由

- ・根底にあったのは地域貢献をしたいという思いでした。日本経済をよくするには地域の活性化が欠かせません。石川県には旅行で訪れたことがある程度でしたが、自分が役に立てるならと思い、参加を決めました。

評価（取り組み・生活）

- ・デジタルピッキングシステムのデータから過去1年のエラー（誤配・破損など）について調べ、その発生率が高い工程と原因を特定した上で対策を施しました。社員の皆さんが自分ごととして受け止め、努力してくれた結果、エラー発生率50%削減という目標を達成することができました。
- ・RPAを導入し、クラウド型の動態管理システムからトラックの運行状況に関する各種データを社内のサーバに自動的に蓄積する仕組みを構築しました。今後はこのデータを活用し、安全対策の改善などに役立てます。
- ・移動手段のない高齢者などを支援するため、試験運行を開始した無料バス事業にも志願して参加させてもらい、利用客とのコミュニケーションやスポンサーへの情報提供をシステム面からサポートしました。

今後の展望

- ・やりがいのあるさまざまな仕事に携わることができ、とても充実した半年間でした。今後については、会社から求められることに対し、自分がどのように貢献できるのかを社長と話し合った上で、決めたいと思います。